

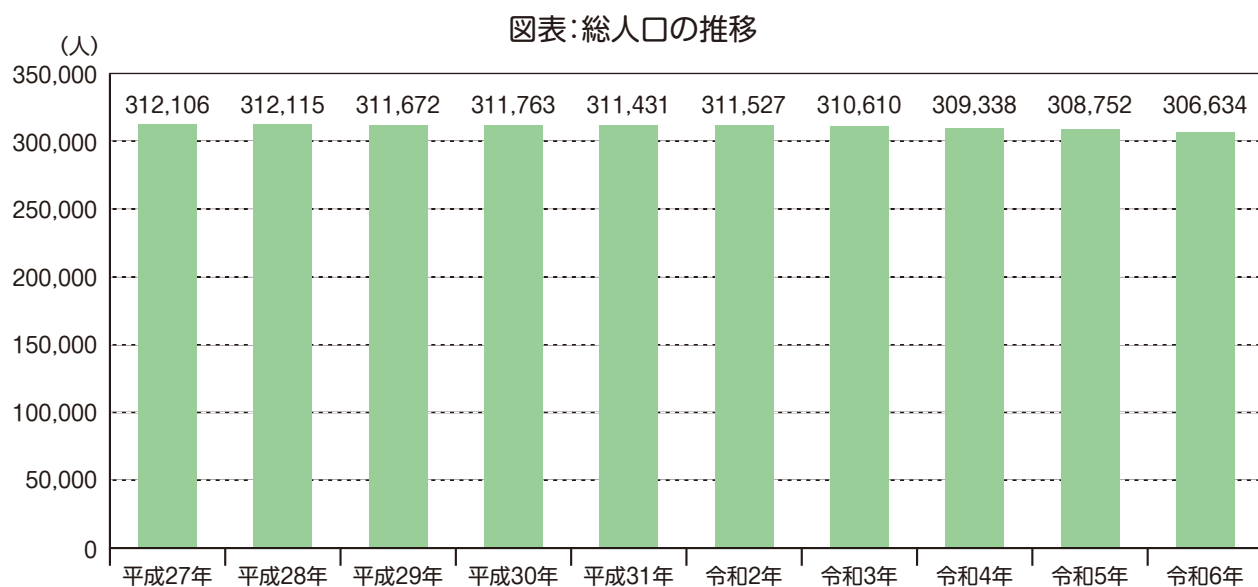
第2章 こども・若者、子育て当事者を取り巻く現況

1. 人口の状況

(1) 総人口の状況

① 総人口の推移

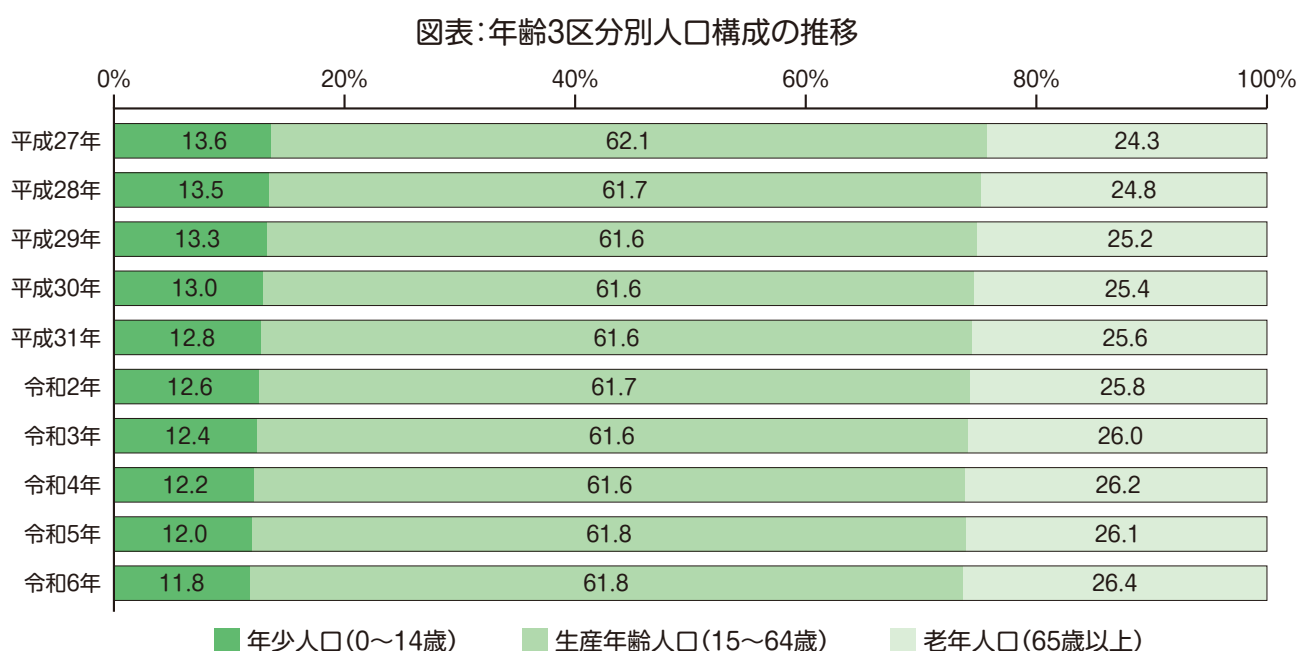
本市の総人口は、令和6年4月1日時点306,634人で、令和4年には31万人を下回り、緩やかな減少傾向が続いています。



資料：住民基本台帳(各年4月1日時点)

② 年齢3区分別人口構成の推移

年齢3区分別人口構成は、0～14歳の年少人口の割合で減少傾向が続いています。



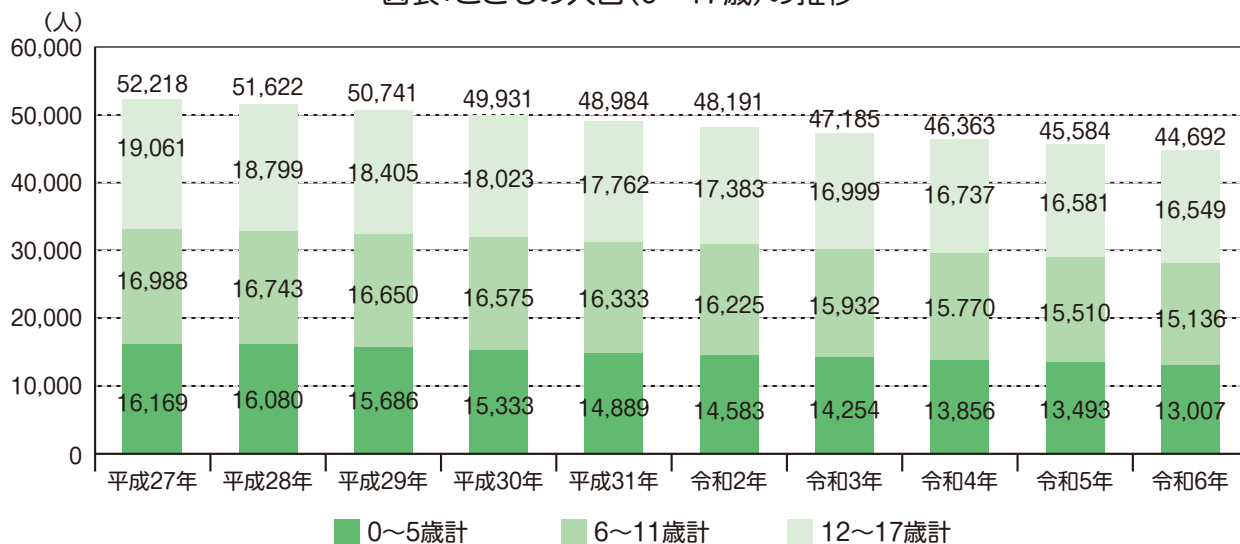
資料：住民基本台帳(各年4月1日時点)

(2) こどもに関わる人口の状況

① こどもの人口(0～17歳)の推移

0～17歳のこどもの人口は、令和6年には44,692人で、平成27年と比較すると、全体では7,526人の減少となっており、年齢別では0～5歳が3,162人と最も減少しています。

図表：こどもの人口(0～17歳)の推移

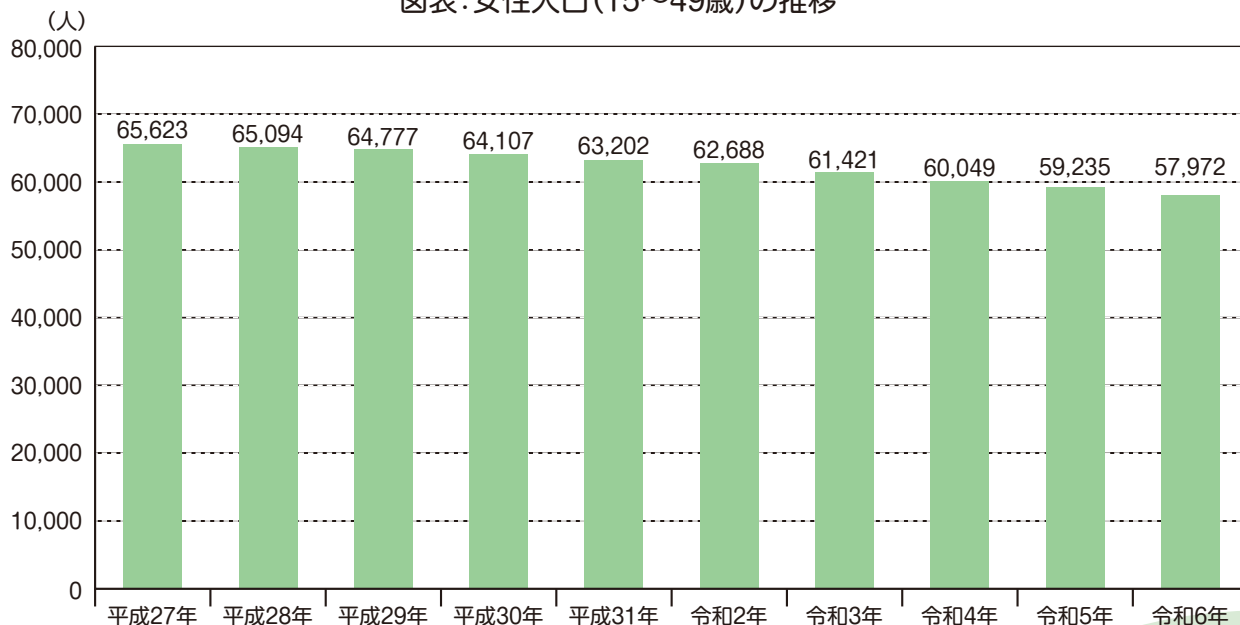


資料：住民基本台帳(各年4月1日時点)

② 女性人口(15～49歳)の推移

15～49歳の女性人口は、令和6年には57,972人で、平成27年と比較すると7,651人の減少となっており、減少傾向が続いています。

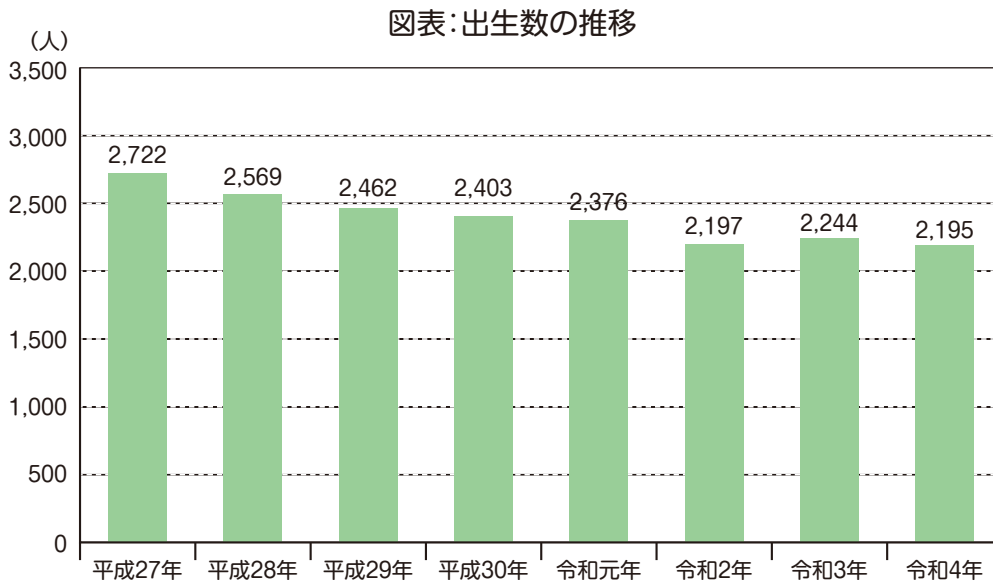
図表：女性人口(15～49歳)の推移



資料：住民基本台帳(各年4月1日時点)

③ 出生数の推移

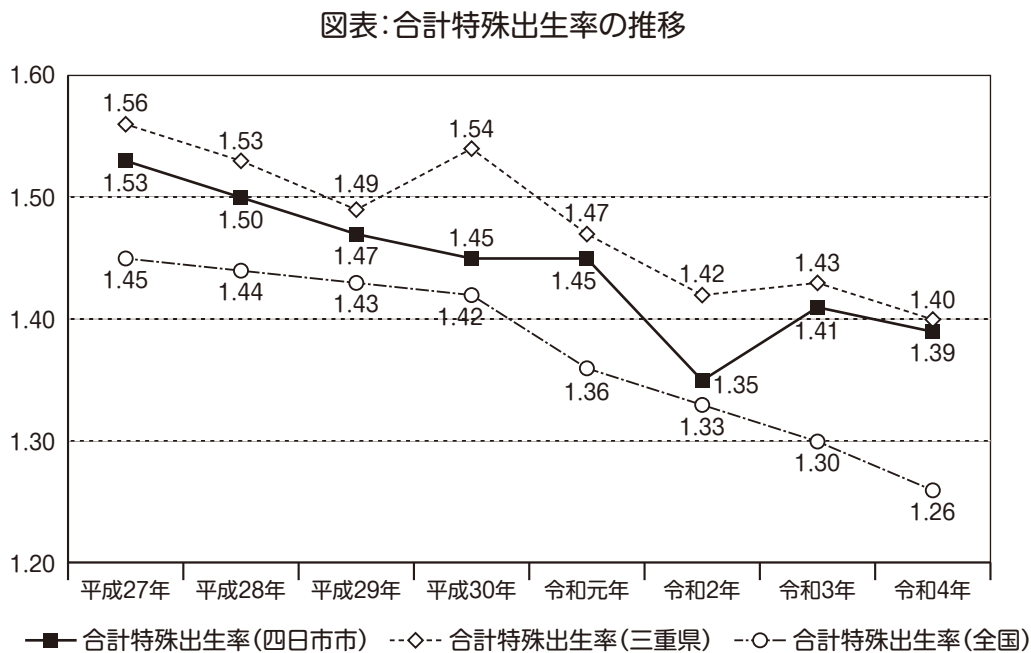
出生数は、令和4年には2,195人で、平成27年と比較すると527人の減少となっており、減少傾向となっています。



資料：四日市市統計書

④ 合計特殊出生率の推移

合計特殊出生率は、令和4年には1.39となっており、平成27年の1.53から低下しています。また、全国と比較すると上回っていますが、三重県と比較すると下回っています。



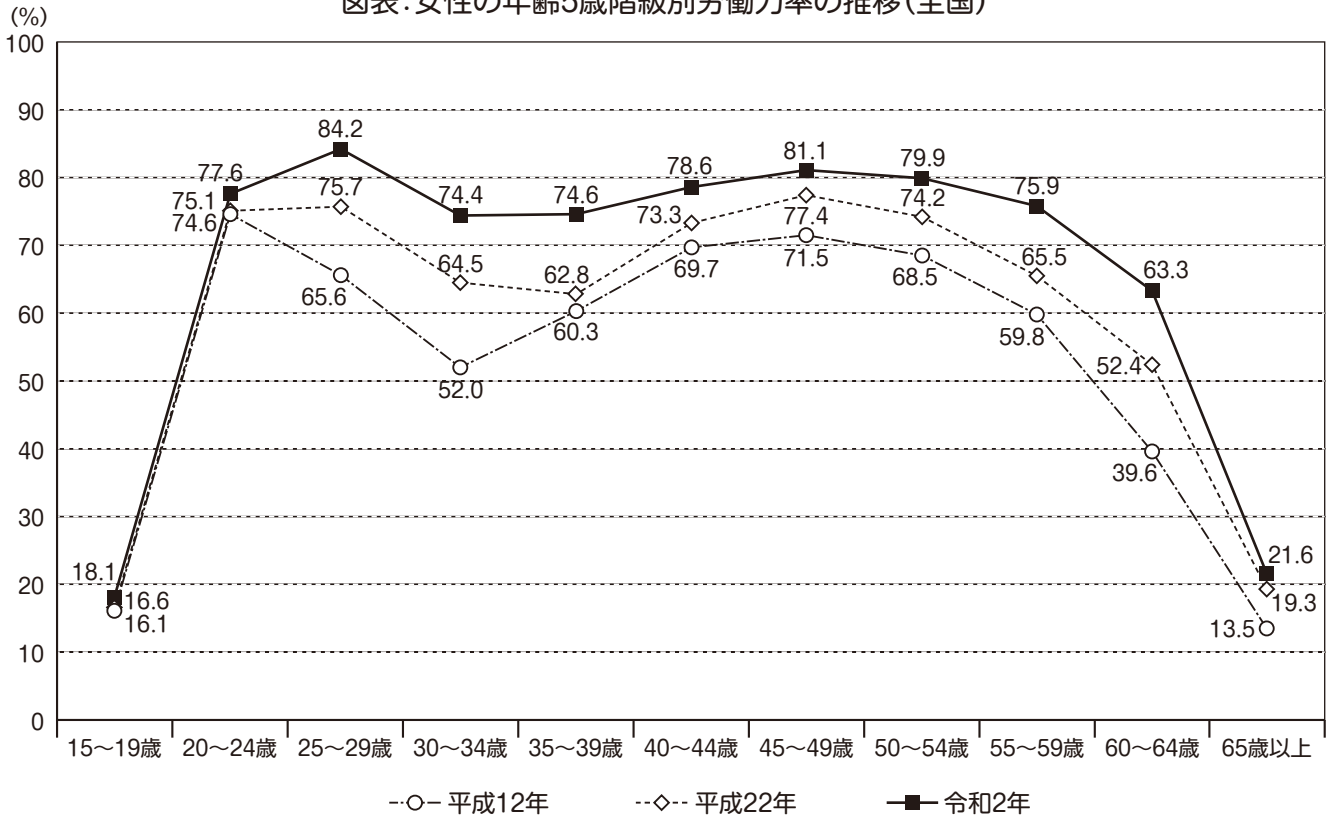
資料：人口動態統計



2. 女性の就業状況

全国の女性の5歳階級別労働力率を平成12年から令和2年までの10年ごとにみると、平成12年には30～34歳が52.0%でM字型となっていました。令和2年には25～29歳が84.2%、30～34歳が74.4%と大きく上昇し、結婚後や子育て中も就労を継続する女性が増加しています。

図表：女性の年齢5歳階級別労働力率の推移(全国)



資料：国勢調査

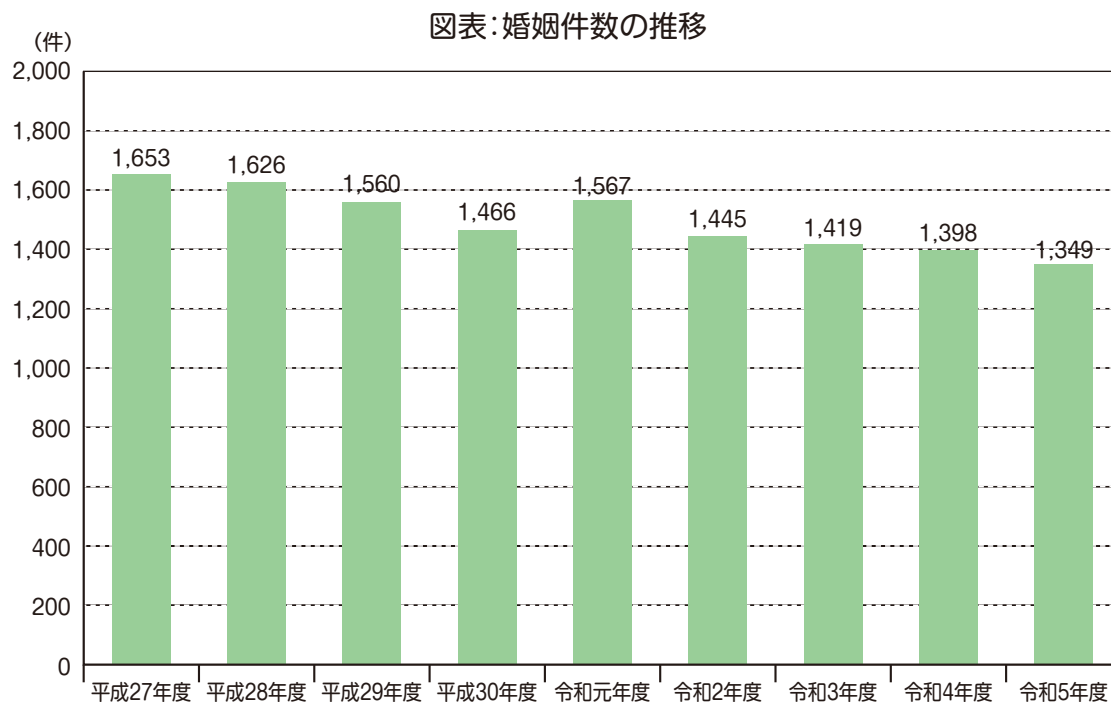
※ただし、令和2年は不詳補完値(不詳補完値とは、国勢調査における不詳データの増加に伴う影響に対応するため不詳データをあべん分などにより補完処理された値のこと。)



3. 婚姻に関する状況

①婚姻の状況

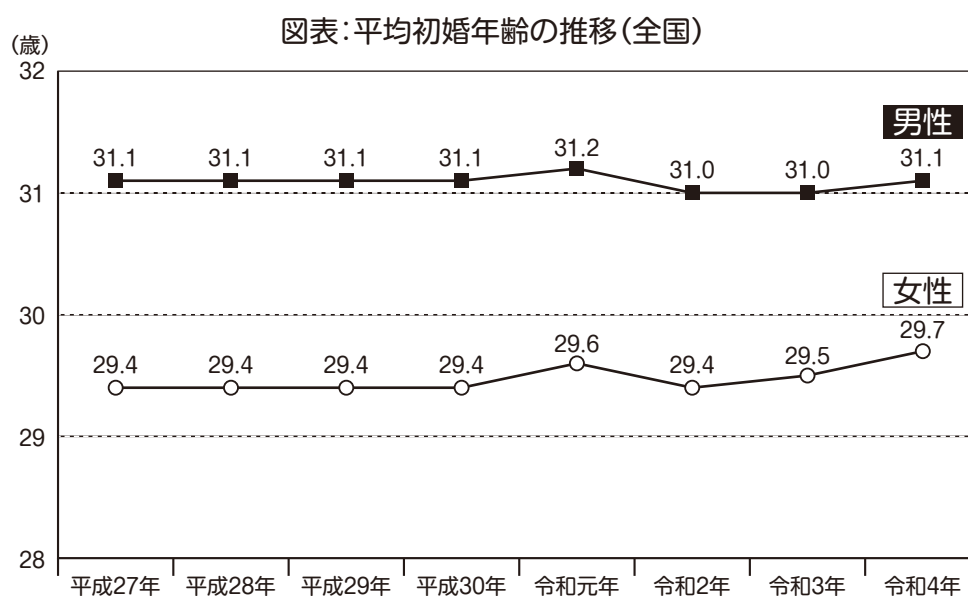
本市の婚姻件数(市の窓口へ婚姻届の提出があった件数(市外在住者を含む))は、平成27年度以降では令和元年度を除くと、全体としては緩やかな減少傾向にあり、令和5年度は1,349件となっています。



資料:市民課年報

②平均初婚年齢の推移

全国の平均初婚年齢をみると、男性はほぼ横ばい、女性はわずかに上昇しています。



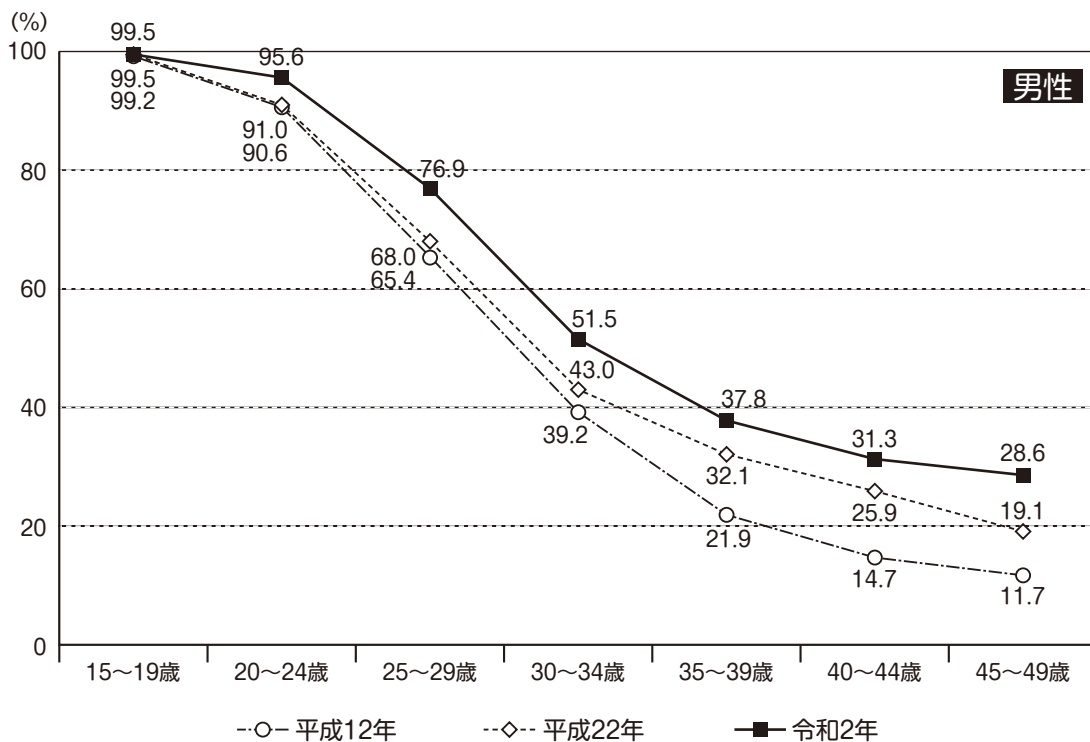
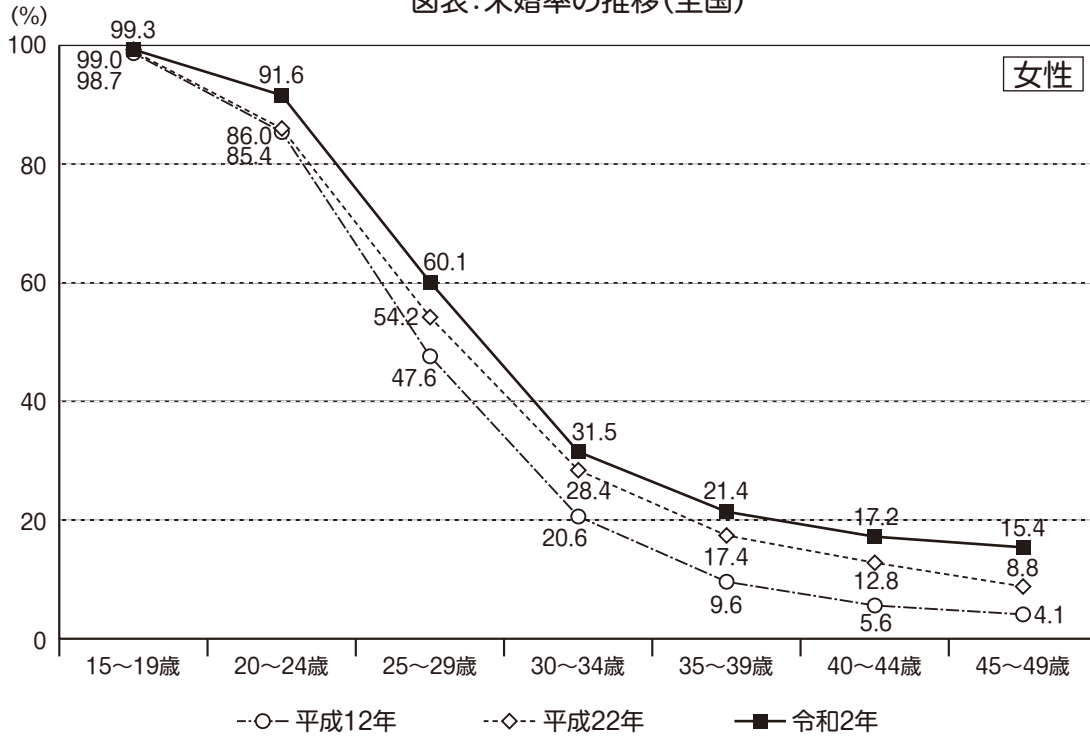
資料:人口動態調査



③未婚率の推移

全国の男女別の5歳階級別の未婚率を平成12年から令和2年までの10年ごとにみると、男女とも20歳以上の未婚率が上昇し、特に男性は高くなっています。

図表：未婚率の推移(全国)



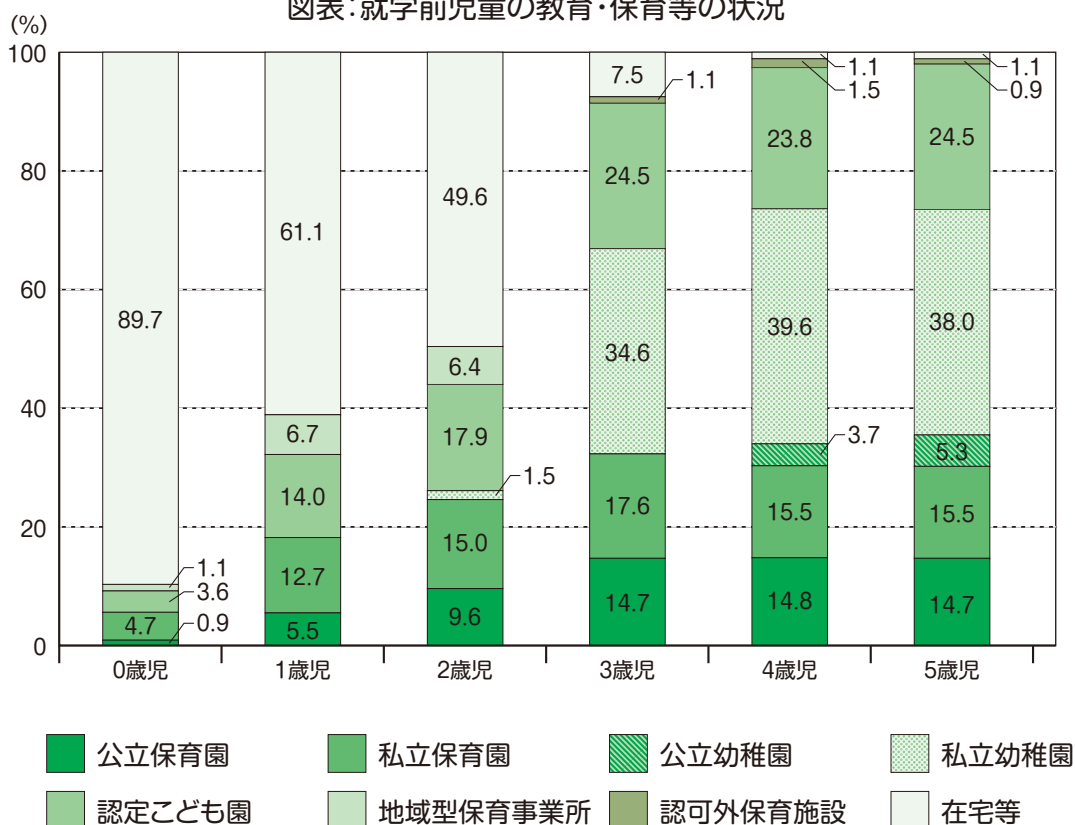
資料：国勢調査 ※ただし、令和2年は不詳補完値

4. こどもの現況

①就学前児童の状況

本市の就学前児童の定期的な教育・保育の利用状況をみると、0歳児は10.3%、1歳児は38.9%、2歳児は50.4%が保育園や認定こども園(以下「こども園」という。)等を利用しています。保育料無償化の対象となる3歳児以上は在宅等が極端に少なくなり、4、5歳児はほぼ全員が何らかの教育・保育施設を利用しています。

図表:就学前児童の教育・保育等の状況



※就学前児童数は、令和6年4月1日時点の住民基本台帳人口13,007人。

幼稚園の児童数は令和6年5月1日時点の、その他は令和6年4月1日時点の数値。

私立保育所及び私立幼稚園の児童数には、市外の園に入所する児童も含む。

資料:保育幼稚園課

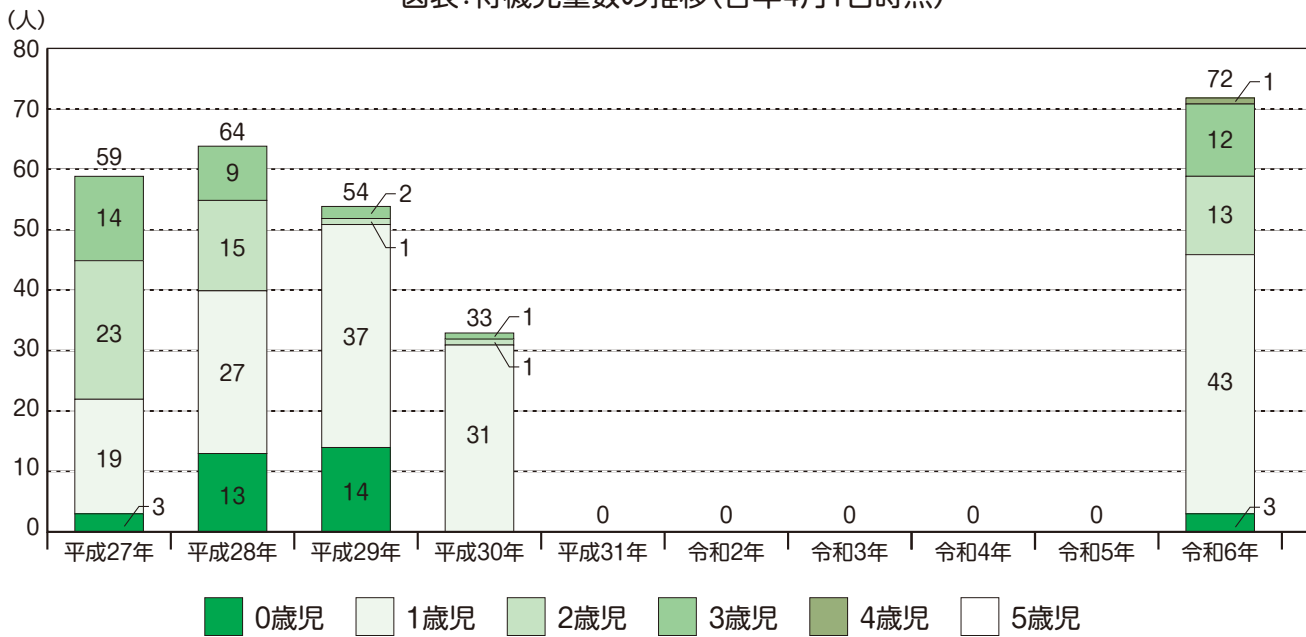


②待機児童の状況

令和6年4月1日時点の待機児童は72人で、1歳児が43人と半数以上を占めています。平成28年から平成30年にかけては減少傾向となり、平成31年から令和5年にかけて待機児童は0人でした。

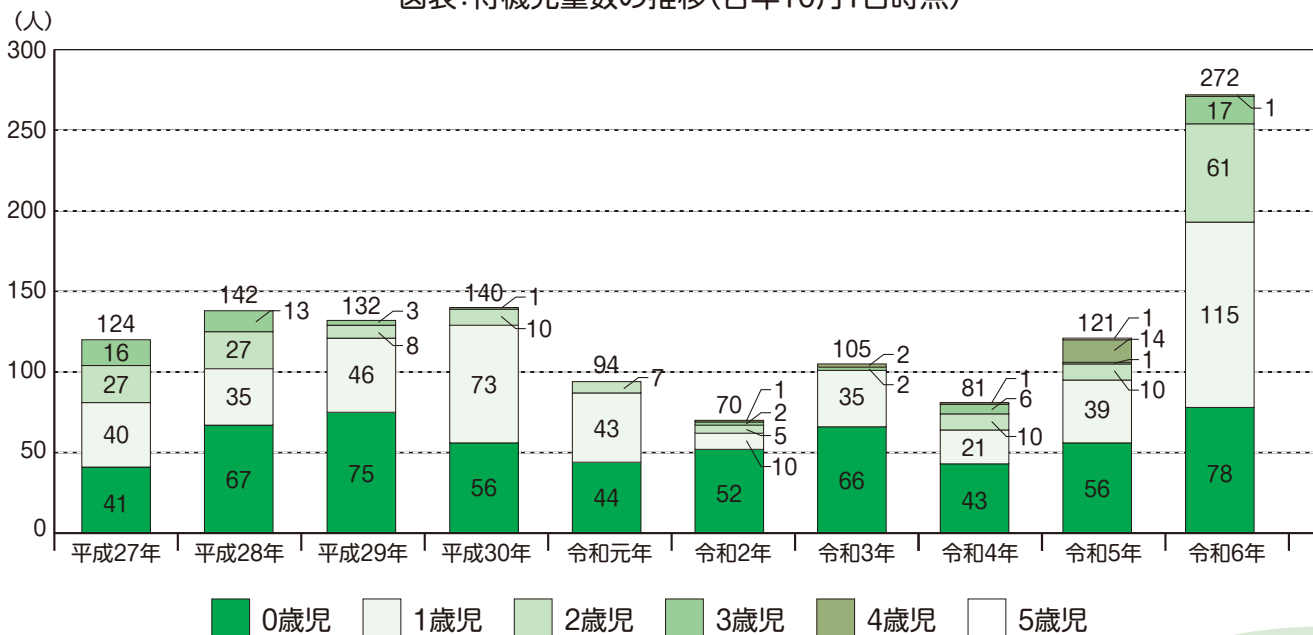
各年10月1日時点の待機児童は、平成27年から平成30年にかけては120人を超えており、令和元年から令和4年までは100人前後となりましたが、令和6年は272人と大幅に増加しています。

図表：待機児童数の推移(各年4月1日時点)



資料：保育幼稚園課

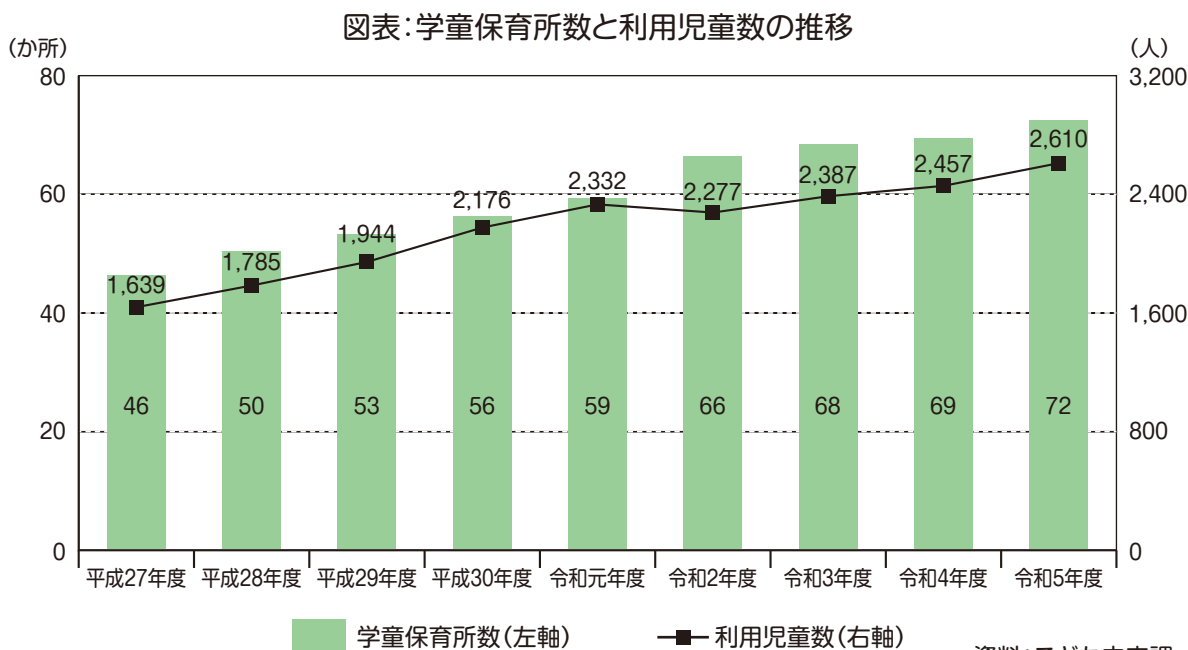
図表：待機児童数の推移(各年10月1日時点)



資料：保育幼稚園課

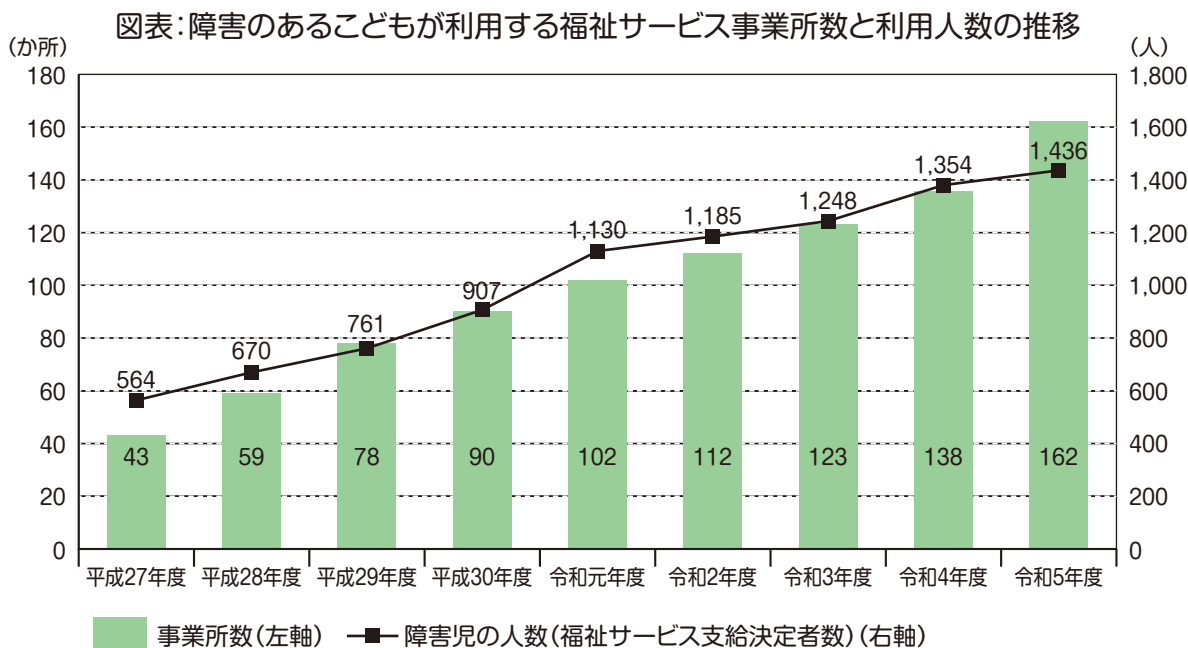
③学童保育所の状況

市内の学童保育所は、令和5年度には72か所で、利用児童は2,610人と、平成27年度から学童保育所数も利用児童数も増加傾向が続いています。



④障害児の状況

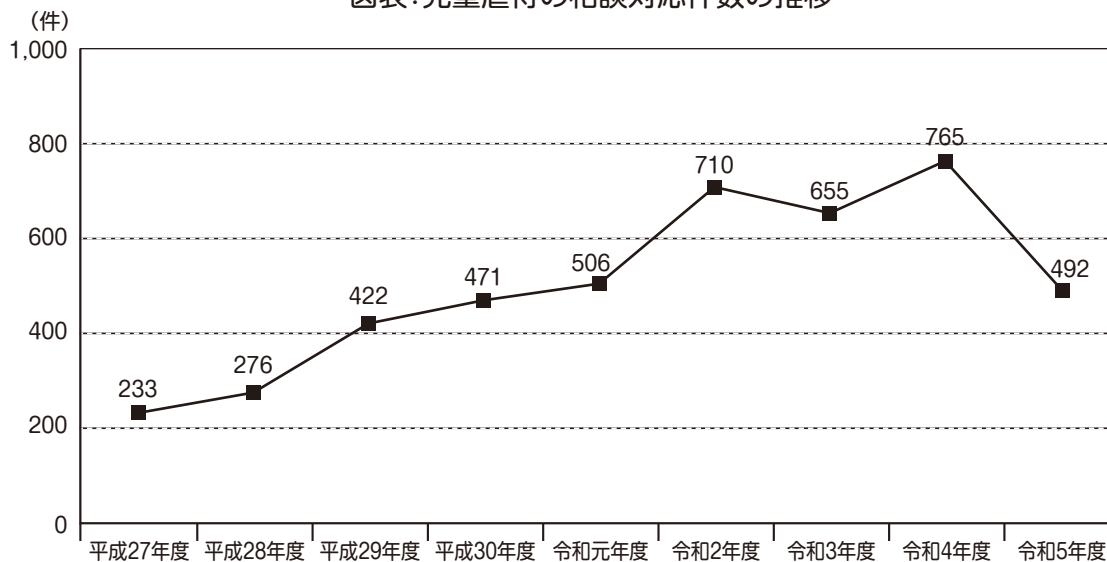
障害のあるこどもが地域で安心して暮らせるように、支援の必要なこどもに対し福祉サービスの提供を行っています。その福祉サービスの支給決定を受けた、本市の障害のあるこどもの人数は増加傾向が続いており、また、障害のあるこどもが利用する福祉サービス事業所数も増加しています。



⑤児童虐待相談対応の状況

本市の児童虐待に関する相談対応件数は、平成27年度から増加傾向にあり、特に外出制限などにより家庭でのストレスが高まりやすかったコロナ禍(令和2年～令和4年)においては、相談件数も一段と増加しました。一方、令和5年度の件数については、コロナ禍前(令和元年度)の水準となりました。

図表:児童虐待の相談対応件数の推移

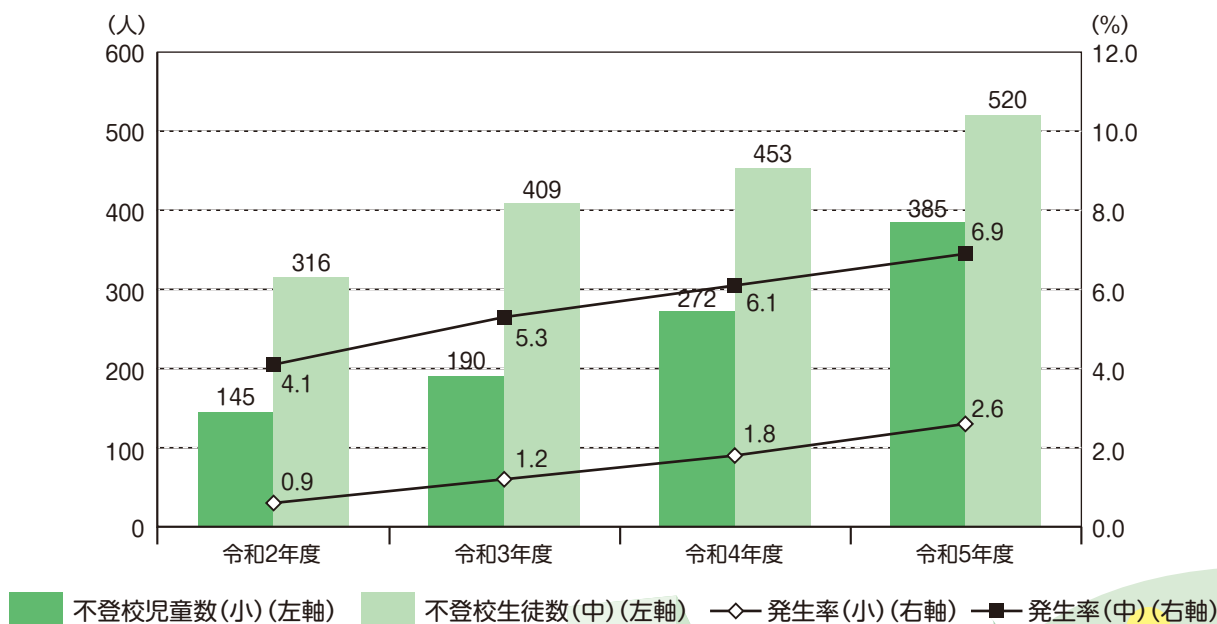


資料:こども家庭センター

⑥不登校の状況

本市の不登校の児童生徒数は、令和2年度から令和5年度にかけて、小学校、中学校ともに増加しています。令和5年度には全児童生徒のうち、小学校で2.6%、中学校で6.9%の発生率となっており、その比率も増加傾向となっています。

図表:不登校児童生徒数の推移

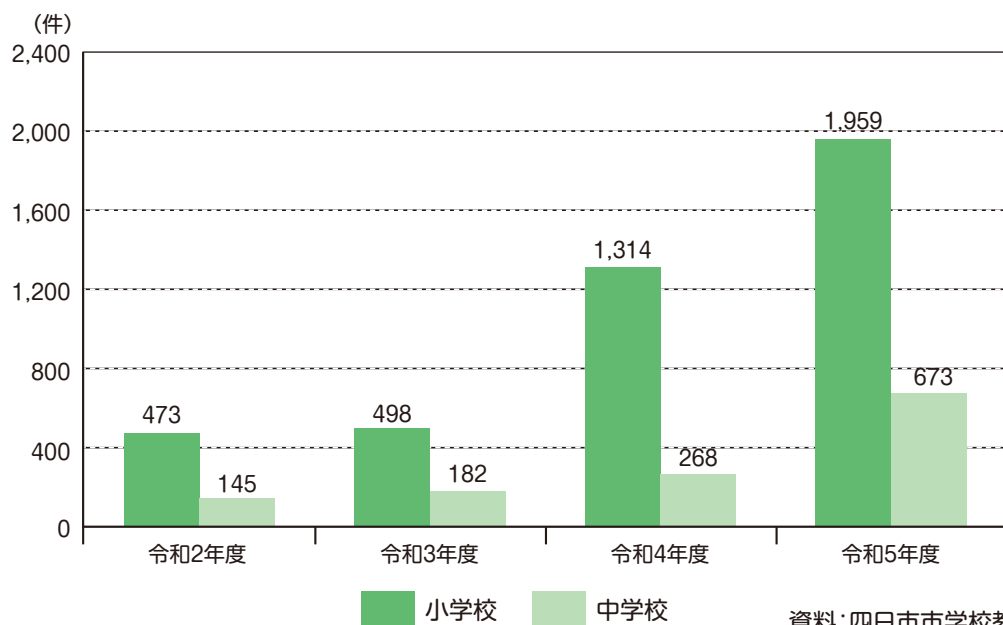


資料:四日市市学校教育白書

⑦いじめの状況

本市のいじめの認知件数は、令和2年度から令和5年度にかけて、小学校、中学校ともに増加しており、令和5年度には令和2年度に比べて小中学校ともに4倍以上に増加しています。

図表：いじめ認知件数の推移



資料：四日市市学校教育白書